

平成 28 年度 第 3 回学校協議会

## 平成 28 年度府立野崎高等学校第 3 回学校協議会議事録

日時：平成 29 年 2 月 22 日(木)

14:00～16:00

於：本校会議室

司会：榊教頭

記録：鈴木・山本和・前田和・宮成

### 【次第】

- 1 校長挨拶
  - 2 出席者紹介
  - 3 学校より
  - 4 協議・意見交換
  - 5 会長より
- 

#### 1 校長挨拶

- 学校協議会委員を引き受けていただいたお礼
- 本校の様子について
  - ・ 学年末考査の時期である。
  - ・ 3 年生は卒業式を直前に控えている。
  - ・ 2 年生の修学旅行は大きなトラブルもなく無事に終了できた。  
→民泊の離村式では感動して涙を流す生徒もいるなど、満足度の高い修学旅行であった。
  - ・ 明後日に学校説明会を控えている。
  - ・ 現時点での中学校情報によると志願希望者が定員に満たない状況である。
  - ・ 今年度の成果発表と次年度への課題を明らかにする場にしたい。

#### 2 出席者紹介・資料確認（榊教頭）

- 資料名簿による委員紹介
- 事務局メンバーの自己紹介

#### 3 学校からの報告

- 学校経営計画について（村田校長）
  - ・ 府教育庁支援による「診断支援研修」を実施し、学校経営計画に反映できる実践を

通して次世代のミドルリーダー育成と学校の底力向上をめざしている。

- ・ 今週の月曜日に診断支援研修を行い、受講者の教員から次年度学校経営計画の作成に向けた提言がなされた。
- ・ 学校経営推進費について、H27年度は学力向上、H28年度は自尊感情の育成をテーマに予算支援を受けている。来年度も獲得できるように計画を進めたい。

① 確かな学力への取り組み

- ・ 各教室に配置した短焦点のプロジェクターを常時活用できている。今後も活用を続けてほしい。

② キャリア教育

- ・ 目的のない進路未決定者0%に向けた支援を継続中である。
- ・ 大東商工会議所や大阪府中小企業家同友会と連携し、経営者の方々を招聘し交流会などを実施した。教師以外の方からの話は生徒にとって良い刺激となっている。

③ 規範意識

- ・ 懲戒人数は昨年度と同様であるが、懲戒件数は減少している。
- ・ 今年度から教員向けのストレスチェックが始まった。本校では、職場環境に対するストレス値が府立学校平均より1割程度低いという結果が出た。

④ 教員の研修体制

- ・ 本校教員の平均年齢は37歳以下であり、平均勤続年数は8.6年である。40代の教員が少なく、20・30代の教員のミドルリーダーとしての成長が求められている。経験の少なさを踏まえ、それぞれの資質向上を図る研修を積極的に実施している。
- ・ ユニセフが主催する東京での研修に参加した者、教育庁の推薦制度を利用して教職大学院に通う者がいる。
- ・ 今年度は府教育庁のサポートにより「診断支援研修」を実施している。研修が進めば学校の取組みも進む一石二鳥の研修である。研修成果として、生徒主体の取組み活性化に向けた「生徒リーダー研修」の準備が進行中である（3月に大阪産業大学の施設を利用し実施予定）。
- ・ 1月実施の府教育庁研修「明日のスクールリーダー養成コース」には6名の教員が参加した。グループワークで積極的に討議を進めるなどして、評価していただいた。
- ・ 複数の教員が、授業改善等に係る校外研修に参加した。特に、地域の小・中学校における「学び合う授業研究」では、研究協議を通して他校種間の交流を図ることができた。
- ・ 校内では、府教育センターの支援のもと、学校全体としての授業改善をめざす「パッケージ研修支援Ⅱ」を実施した。数学科をモデルとして研究授業・研究協議を展開し、教科に関わらず多くの教員が参加し意見を交換した。
- ・ 教職経験2年から4年までの教員の授業力向上を目的とした府教育センター主催の「フォローアップ研修」には、8名の教員が積極的に参加した。

- ・ 任期付の民間人校長として採用予定の方2名を受け入れ、校内のOJT研修を実施した。その方々が授業を見学した際、授業担当者が自ら講評を聞きに行った。研修を引き受けたことで、本校の教員側にも学ぶ姿勢が見られた。

#### ⑤ 地域連携

- ・ 「体験入学会 チャレンジ野崎」のオープニングセレモニーでは、部活動所属生徒がバンド演奏やダンスを披露し、日頃の活動成果を発表するとともに、参加中学生を歓迎した。

#### 【生徒指導部より】

##### ● 指導案件について

- ・ 2月に多くの生徒が指導対象となったため昨年度比では少し上回る結果となった
- ・ 授業遅刻者は昨年度比で35%減となった。
- ・ スマートフォンの利用マナー向上をめざし、「大阪スマホサミット」に生徒会役員数名が参加した。活動を見た1年生の中には、来年度の参加を校長に直接申し出る者もいた。
- ・ 「生徒リーダー研修」を行い、生徒主体で行事を進めることができるようになった。一昨年度のリーダー研修に参加した卒業生がファシリテーターとして参加予定。
- ・ 登校遅刻者数を1万人以下にすることを目標としていたが、達成できなかった。しかし、昨年度比で減少させることはできた。家庭との連携を強め、さらなる減少を図りたい。

#### 【進路指導部より】

##### ● 39期生の進路状況について

- ・ 進学者が15%増加し、半数近くの生徒が進学した。
- ・ 就職では、1次試験内定率が昨年度より上昇した。
- ・ 進路未定者は昨年度より減少した。現時点では2.1%の未定者がいるが、継続して支援していく。
- ・ 大学・企業等と連携して早期から生徒の進路意識向上を図っていることが、進路実現の成果につながっている。
- ・ 前向きに学ぼうとする生徒が増えている。
- ・ 基礎学力を身につけ、一般入試などを利用し進学できる生徒が増えてきている。
- ・ 進路未定者については、3月31日まで学校全体で支援を続けていきたい。

#### 【Jump Up! PTより】(首席)

##### ● 学校経営推進費

- ・ ICTを活用した授業改善をテーマとする「野崎高校 生徒全員 Jump Up!作戦」

(H27年度より)の一環で、ICTの安全な利活用に係る研修を実施した。スマートフォンやインターネットに係るマナーやトラブルに詳しい講師を招聘し、生徒・教員それぞれを対象とした講演を実施した。

- ・ 自尊感情の育成をテーマとした「野崎高校 生徒全員 Light Up!作戦」(H28年度より)では、「生徒が主役になれる舞台づくり」を進めるべく、体育館の照明・舞台装置をバージョンアップした。同時に先進校への視察を進めた。年度末には演劇を専門的に指導する講師を招聘し、教員を対象とした舞台活用研修を実施する。

#### ● 診断支援研修(首席)

- ・ Jump Up! PTの全メンバーが受講者となり、学校の課題を総合的に把握し、取組みを進めることを目標にしている。
- ・ 学校課題を「授業改善」「『総合的な学習の時間』の取組み」「生徒主体の取組み」の3点に整理した。
- ・ 取組みについては、短期的な視点と長期的な視点で考えることにした。
- ・ 今年度は府教育庁のサポートを受けながら進めているが、来年度は研修の形態をとらなくても、Jump Up! PTが主体となり、今年度の取組みをさらに継続させる。
- ・ 取組みの成果を測定するため、学校教育自己診断を活用する。診断の目的・項目づくりから結果の集約・分析に至るまで、Jump Up! PTを基盤に多くの教員が携わりながら進めていく。

#### 【広報PTより】(首席)

- ・ ボランティア等の地域活動について  
→大阪産業大学と連携した野崎駅周辺の清掃活動など。
- ・ 野崎レボリューション  
→定期考査最終日に100名程度の生徒が集まり、校外周辺の清掃活動を行う。
- ・ 大東キャンドルナイト  
→大阪府中小企業家同友会が主催する地域活性化イベント。全校生徒が作成したキャンドルを生徒会より提供し、運営に貢献した。
- ・ 生徒あいさつ運動  
→診断支援研修での提案に基づき、生徒会・クラブ生徒が中心となって登校時に行った。

#### 【学校教育自己診断】(首席)

- ・ 今年度も結果の検証、分析は必要である。
- ・ 生徒の学年が上がると学校満足度が上がるのは良い結果であると言える。
- ・ 校舎内の清掃意識を上げることが必要である。

- ・ 本校の生徒に対してもホームページやブログの宣伝が必要である。
- ・ 保護者の満足度は高いと判断できる。  
→「野崎高校に入学して良かったと思える」の数値が高い。
- ・ 遅刻指導などは生徒と保護者で結果が大きく異なった。
- ・ 行事に関する項目は生徒、保護者ともに高かった。
- ・ 12月に保護者宛てにアンケートを行った。その結果保護者からの回答数は、昨年度より増加している。
- ・ カリキュラムやコースについて、生徒や保護者の意見を聞く必要がある。
- ・ ブログの更新ができる教員を増やす必要がある。
- ・ 生徒や保護者の意見を反映して学校教育自己診断を慎重に行っていく必要がある。

#### 【第2回の授業アンケートの分析】(教頭)

- ・ 全般的な考察  
→全体の平均で9項目中8項目において、1回目より上回ることができた。  
→毎年、生徒意識の質問項目における「満足度」「達成感」を常に意識している。  
1回目より微増ではあるが、2回目は高い評価が得られた。  
→さまざまな研修の積み重ねが、生徒の「満足度」に表れていると判断している。
- ・ 基礎学力、授業展開について  
→授業展開に関してICTを使用して、さまざまな工夫を行っている。  
→それに伴い、生徒の基礎学力の向上につながっている。
- ・ コース選択について  
→生徒が自分で選択した科目について高い意識で授業に取り組んでいる。
- ・ 講座の形態について  
→少人数や習熟度別、ティーム・ティーチングなど、さまざまな形態がある。  
→少人数授業の満足度が非常に高い。  
→習熟度別の満足度が下がっている。  
→授業の形態は実技や実習、講座などで分けている。  
→毎年実技の満足度が高い。  
→各授業形態の中で創意工夫が見られる。
- ・ 学年度別の評価について  
→1・2年生に関して例年と異なる数値が出た。  
→客観的に授業を評価している結果であると判断している。  
→3年生に関しては非常に評価が高かった。
- ・ 科目別の評価について  
→今年度は落ち着いた数値となっているが、基礎力や展開などは過去最高基準で推移している。

#### 4 協議・意見交換

会長：今年度の取り組みや、次年度について何か意見があればお願いします。

委員：部活について、野崎高校野球部顧問の先生が中学生に「野崎で野球をしないか！」と勧誘していた。公立高校でもこのような活動が続けばいいと思う。出来るかどうか分からないが、事前に体験入部などができたらいいと思う。保険を含め安全面には十分に配慮する必要があるが、実施できればいいと思う。

会長：(前任校で) 体験入学会の時にクラブに参加させたことはあった。このような取り組みは面白いと思う。また考えていただきたい。

委員：里山ボランティアクラブの3年生はよく頑張ってくれたと思う。

委員：学校教育自己診断の結果は、シビアに現状を表わしていると思う。

遅刻指導などが最たる例。

生徒を学校に送るのは親の仕事である。遅刻している現状に申し訳なく思う。また、保護者の中には、このように野崎高校が遅刻指導をしている現状を知らない保護者も多いと思う。

進路状況を見て、さまざまな進路先があって生徒がのびのびと進路を選べたのかなとも思った。

会長：進路指導に関しては、本当に頑張っていると思う。

授業アンケートの2年生の結果をみても数値が落ち込んでいない。

委員：アンケートから矛盾する結果も表れている「校舎の清掃が行き届いている」は低いのに「自分はマナーを守っている」が高いのは矛盾して面白い。

会長：中学校から見てどう思うか？

委員：本当にいろいろな取り組みをしていると思う。

地元の学校としてはありがたい、安心して送りたい。

経済的に厳しい環境の中スマホの所有率は非常に高い。今後もマナーや使い方は指導していく必要がある。中学校でも「おかんアプリ」を宣伝したい。

教諭：中学校でも使えるような資料を用意したいと思う。

会長：中高の連携にもつながるのでいいことだと思う。

委員：若い先生が熱心に研修に行かれているのが分かる。われわれも見習うべき点であるスマートフォンの時代で危険性やリテラシーなどの講習会をやっているのは評価できる。私も分からないことはあるが講習会は非常に有意義だと思う。

遅刻に関しては多いと思う。しかし、遅刻する生徒は固定されているとも思う。家庭と連携して遅刻を減らせると思う。上級生を利用してこのことも解決できればいいとも思う。

会長：遅刻は少しずつ減ってはきている。

教諭：やはり、遅刻する生徒は固定されている。また遅刻が多い生徒は他の問題を抱えていることも多い。

会長：P T Aと連携して1日でも生徒にあいさつ運動をさせてみてはどうか。

首席：機会があるたびに小中学校へ本校教員が訪問している。中高連携の一環としている  
いろな学校行事に行っていることを言い忘れたのでこの場で言わせてもらった。

会長：先生は一生懸命にされている。身体を大事にしてほしい。

10年未満の先生が多いことはプラスであると思う。失敗していい。学校で失敗して  
学ぶということは大切なことであり、生徒とともに学んでいけばいいと思う。

枝ばかりにならないように、基本はめざす学校像のためにどうしていけばいいかと  
見据えてベクトルを合わせていく必要がある。

## 5 会長より

「弱み」は捨てる。強みを伸ばすことで、教員も面白くなっていくと思う。課題解  
決ではなく、強みを伸ばす方が面白いと思う。自己診断でも同じことがいえる。強み  
をどんどん伸ばすことを進めていけばいいと思う。

教頭：今回もらったアドバイスをじっくり揉んで今後生かしていければと思う。

次年度も協力を依頼したい。